

部 長	次 長	課 長	担当課長	主 幹	主 査	主 任	担 当

報告日：平成23年10月14日 報告者氏名：

会 議 名	第2回（仮称）狭山市協働事業ガイドライン策定委員会
開 催 日 時	平成23年10月11日(火) 午後6時30分～午後8時35分
会 場	狭山市役所 6階会議室
出 席 者	（仮称）狭山市協働事業ガイドライン策定市民検討委員14名、 ワーキンググループメンバー17名 株式会社ラック計画研究所 前田文章氏（アドバイザー） 以上32名
議 題	1. 開 会  2. 副委員長あいさつ  3. 議 題 （1）今後の進め方  （2）ご意見シートの概要  （3）協働の現状と課題について（グループ討議） 《テーマ》 ①協働とは ②協働の課題

	<p>(4) その他</p> <p>4. 閉 会</p>
<p>協議概要・ 決定事項</p>	<p>1. 開 会 協働事業担当主査 ○本日の進め方 ・グループ討議の結果をどのようにガイドラインに反映させていくかということ話し合ってもらいたい。</p> <p>2. 副委員長あいさつ 諏訪副委員長 ・協働に対するご意見シートを考えてみて難しいと感じた。 ・行政のかたちがはっきりしないと、民間の姿勢が決まりにくいのではないか。 ・官から民へ移譲していく時代の流れのなかで官と民がどのような形で手を取り合うのか。 ・住みよい狭山をつくるという点に重きを置いて取り組んでいければと考えている。</p> <p>3. 議 題 (1) 今後の進め方 小川市民部次長（協働事業担当課長） a) 資料1「(仮称)狭山市協働事業ガイドライン策定全体スケジュール(改)」について ・台風の影響などで、第2回目以降の開催時期を変更した。 ・第2回会議ではご意見シートの1. 協働とは、2. 協働の現状と課題、3. よかったこと・反省すること、4. 協働のメリットの4項目を取り扱う。 ・第3回会議ではどのような協働事業を行うのか、ご意見シートの8. 実施したい事業の項目を取り扱う。</p>

- ・第3回会議は市民検討委員会と庁内ワーキンググループを別々に開催する予定。
- ・第2、3回の会議が終了したら庁内組織はガイドラインの骨子についての議論に移っていく。
- ・可能であれば第4回目の会議は市民検討委員会とワーキンググループ合同で開催したい。
- ・ガイドライン骨子の検討が終わり次第、ガイドラインの素案の検討に移っていきたい。
- ・12月中旬の庁内検討委員会で進行状況や、内容などを報告する予定。
- ・合同開催の趣旨は市民と行政職員の面識を広げ、今後の協働事業を進める際のきっかけになればと考えている。

b) 協働のイメージ

資料1「ガイドラインのイメージ（お弁当箱）」参照

- ・協働のガイドラインのイメージをお弁当箱に例えてみた。
- ・それぞれ様々な意見があると思うので、付け足したい項目などがあれば意見を出してもらいたい。

(2) ご意見シートの概要

株式会社ラック計画研究所 前田文章氏

資料3「市民検討委員、ワーキンググループご意見のまとめ」参照。

※パワーポイントにより説明

(3) 協働の現状と課題について（グループ討議）

a) 事務局からのお願い

- ・それぞれのグループで進行役と書記を決めてもらう。
- ・発表を最後の25分ぐらいで行う。（1グループ約4分）
- ・キャッチフレーズ一覧の中から良いと思うキャッチフレーズを3つまで選んでシールを貼ってもらいたい。（会議の後半で

結果を発表)

- ・ガイドラインのイメージ（お弁当箱）についての意見を出してもらいたい。（正面のホワイトボードに付箋貼付）

b) 前田氏からのお願い

- ・討議時間は少ないがテーマは2つあるので時間配分に注意して下さい。
- ・課題になる部分を挙げてもらいたい、それがガイドラインの要素になっていく。
- ・知っている協働に関する活動や現在行っている活動があれば情報を出してもらいたい。

c) 諏訪委員からの質問

Q：(諏訪氏) 協働に対するご意見シートには「協働とは」とあり、別紙資料「ご意見のまとめ」には「なぜ協働なのか」とあるが両者の表現の違いに意味はあるのか。

A：(前田氏) 表現は違っているが共通の話題として捉えているので、両者をイコールの意味で考えてもらえればと思う。

d) グループ討議（約50分）

- ・6つのグループに分かれてグループ討議

※各グループのメンバーについては資料2参照

《テーマ》

- ①協働とは
- ②協働の課題

e) 発表

※発表内容については資料7を参照

○発表順

- ・第2グループ
- ・第6グループ
- ・第5グループ

- ・第1グループ
- ・第4グループ
- ・第3グループ

f) 前田氏講評

- ・狭山市らしい項目がいくつか出てきた。具体的には行政と市民が苦楽を共にしていくという点と共助を強調していくという点が狭山市らしさにつながっていくのではないかと。

(4) その他

a) キャッチフレーズ投票結果発表

第1位：みんなでつくる 住みたいまち 住み続けたいまち  
(12票)

第2位： 『We ♥ SAYAMA』  
～みんなの狭山をみんなでつくる～ (10票)

第3位： ・元気なさやまをみんなでつくる (9票)  
・ 『ひとり一役全員主役』  
～みんなの狭山をみんなでつくる～ (9票)

b) 事務局連絡

- ・本日の討論内容をまとめたものを回収し、活かしていきたい。
- ・次回の会議は市民検討委員会とワーキンググループは別々に開催する。
- ・次回の会議の日程が決まりしだい連絡する。

4. 閉 会

山岸市民部長

- ・本日の会議は非常に良い雰囲気の中で行われたが、この良い雰囲気が協働の第1歩だと考えている。
- ・現代社会では課題が錯綜してきている。今までは行政が全てを担

	<p>う形で良かったが、財政、人材などの問題でそうはいかなくなった。そのようななかで、狭山市ではすでに色々な協働が行われているが、時代背景に対応して市民と行政職員が一緒になって協働を進めていければと考えている。</p>
<p>配布資料</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>事務局</p>	<p>市民部次長（協働事業担当課長）  自治振興課協働事業担当 主査・主事補  元気大学担当 課長・主事    以上6名</p>